

平成28年3月10日

平成27年度学校評価（後期）を振り返って

京都市立洛央小学校
校長 森江里子

学校評価にご協力ありがとうございました。

平成27年度学校評価（後期）の集計結果をお知らせします。

今回、児童（低、高学年別）、教職員、保護者の皆様による評価（振り返り）をアンケート形式でご協力いただき、保護者の皆様には全児童数の95%のご回答をいただきました。ありがとうございました。

保護者の皆様からいただきました評価と自由記述の総ての内容一つひとつにつきましては全教職員が目を通させていただきました。学校といたしましては、集計結果とともに、ご提案いただいた内容などを真摯に受け止め、次年度の本校教育活動の改善に繋げていくように活用させていただきたいと考えております。

「4」そう思う「3」大体そう思う「2」あまりそう思わない「1」そう思わない

① 子どもに基礎・基本となる学力がついていると思われますか。（保護者）

先生はわかりやすく教えてくれていますか（児童）

児童に基礎・基本となる学力がつくように指導していますか。（教職員）

保護者

児童（高学年）

児童（低学年）

教職員

「4」 31%

「4」 36%

「4」 40%

「4」 10%

「3」 60%

「3」 49%

「3」 49%

「3」 86%

「2」 7%

「2」 14%

「2」 9%

「2」 4%

「1」 2%

「1」 1%

「1」 2%

「1」 0%

高学年で85%，低学年で89%の児童が「わかった」と実感できているという結果が出ています。例年、前期に比べると後期は数値が下がることが多いのですが、今年度も同様に前期と比べると「4」が減って「3」が増えるという結果になっています。

前期の好結果を受けて、「数値の増減に一喜一憂するのではなく、日々の子どもたちの学びを細かく観察し、適切に評価して、常に指導の改善を図り続けることが大切だ」と考え、各学級で授業の工夫改善に取り組んできたところですが、その成果が子どもたちの実感として表れるところまで達することができなかつたと云えます。今回の結果を真摯に受け止め、組織的な指導力向上の仕組みを構築していくかなくてはならないと考えています。

④子どもはいつもノートに美しい字を書こうとしていると思われますか。（保護者）

いつもノートに美しく正しい字を書くように心がけていますか（児童）

児童がいつもノートに美しい字を書くように指導をしていますか。（教職員）

「4」 26%

「4」 34%

「4」 33%

「4」 25%

「3」 46%

「3」 40%

「3」 41%

「3」 71%

「2」 23%

「2」 18%

「2」 21%

「2」 4%

「1」 5%

「1」 8%

「1」 5%

「1」 0%

低学年は前期と同じ数値でしたが、高学年2、保護者2、教職員5ポイントと微増ではあります、「できている」との評価が高くなりました。何事にも丁寧に取り組もうとする心構えの醸成は、学力向上には非常に重要な要素になってきます。美しい文字で、整理されたノートを書くには高い能力が必要です。重要な学力の一つと位置付け、その向上に向けて今後も地道に取り組んでいきたいと考えています。

⑤子どもが最後まで粘り強く学習する指導がされていると思われますか。（保護者）

わからないことはそのままにしないで、わかるまでがんばっていますか（児童）

児童に最後まで粘り強く学習する指導をしていますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 20%	「4」 42%	「4」 56%	「4」 34%
「3」 64%	「3」 38%	「3」 34%	「3」 62%
「2」 13%	「2」 15%	「2」 8%	「2」 4%
「1」 3%	「1」 5%	「1」 2%	「1」 0%

「わかった」という充実感を得ている子どもが低学年で90%（前期比+4ポイント）、高学年では80%（同一1ポイント）という結果でした。若干ではありますが、どちらもマイナスとなってしまった背景には、後期になって学習内容がそれまでよりも高度化し、「理解できた」という実感を得られにくかったことがあると思います。

授業の改善と共に宿題の確認はきちんとできていたか、放課後の時間を活用して補習を十分に行えたかななど、見直すべき点があったと思います。来年度に向けての反省点としていと考えています。

⑧子どもは将来の夢をもって学校生活を送っていると思われますか。（保護者）

将来の夢を持っていますか。大きくなったらこんな人になりたいと考えたことがありますか。（児童）

児童が自分の将来の夢を持って学校生活を送るように指導・支援をしていますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 23%	「4」 81%	「4」 81%	「4」 10%
「3」 49%	「3」 12%	「3」 10%	「3」 86%
「2」 23%	「2」 3%	「2」 4%	「2」 4%
「1」 5%	「1」 4%	「1」 5%	「1」 0%

自分の将来の夢について「ある」と感じている児童は高学年・低学年ともに前期とほぼ同率でした。どちらも90%以上の子どもが何らかの夢を抱いています。本校は学校教育目標の目指す子ども像に「大きな希望を胸に抱く子」を掲げています。また、来年度はキャリア教育の全国発表の会場校にもなっています。教職員が授業場面だけでなく、学校生活のあらゆる場面で、児童が自分の夢を持ち、将来展望に繋げていけるような働きかけを積極的に進めていくことを大切にしたいと考えています。

⑨子どもは「たてわり活動」で助け合って活動できていると思われますか。（保護者）

「たてわり活動」では他の学年の人と助け合って活動できましたか。（児童）

児童が「たてわり活動」で助け合って活動できるように指導していますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 3 6 %	「4」 5 3 %	「4」 5 6 %	「4」 2 7 %
「3」 5 7 %	「3」 3 6 %	「3」 3 5 %	「3」 7 3 %
「2」 6 %	「2」 9 %	「2」 8 %	「2」 0 %
「1」 1 %	「1」 2 %	「1」 1 %	「1」 0 %

「たてわり活動」を通して異学年集団で協力し合い活動することで仲間意識を育てること、一人ひとりの児童が、学校の一員としての自分の役割を果たしていこうとする自覚を高めることを目的として実施しています。低学年、高学年ともに前期とほぼ同じ数値でした。日頃行っている「たてわり清掃」や、後期に実施した「たてわり遊び」の計画、実施の中で高学年のリーダーシップと低学年のフォロアーシップが育ってきていると感じています。

⑩子どもはあいさつを自分から言えていると思われますか。（保護者）

あいさつを自分から言えていますか。（児童）

児童があいさつを自分から言えるように指導していますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 2 7 %	「4」 5 3 %	「4」 6 8 %	「4」 2 9 %
「3」 5 4 %	「3」 3 6 %	「3」 2 6 %	「3」 6 1 %
「2」 1 7 %	「2」 9 %	「2」 3 %	「2」 1 0 %
「1」 2 %	「1」 2 %	「1」 3 %	「1」 0 %

高学年で8 9 %、低学年で9 4 %の児童が自分から進んであいさつができるいると感じています。数値としては前期とほぼ同じでした。

児童会の子どもが毎朝の登校時に玄関に立ち、「おはようございます」と大きな声であいさつしています。その時、元気にあいさつを返してくれる子が多い学年を見ておいて、翌週の月曜日の給食時に「先週のあいさつマイスターは○年生です」と全校放送で発表しています。選ばれた学年の教室からは「やったー」という歓声が聞こえています。小さなことでも人から認められることが子どもたちの意欲につながるのだなと感じています。

⑫ 子どもはよくない誘いを受けたらはっきりと断れていると思われますか。（保護者）

よくない誘いを受けたらはっきりと断る勇気を持っていますか（児童）

児童がよくない誘いを受けたらはっきりと断る勇気の大切さを指導していますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 2 5 %	「4」 6 0 %	「4」 7 6 %	「4」 4 1 %
「3」 5 7 %	「3」 2 8 %	「3」 1 8 %	「3」 5 9 %
「2」 1 6 %	「2」 8 %	「2」 4 %	「2」 0 %
「1」 2 %	「1」 4 %	「1」 2 %	「1」 0 %

よくない誘いを断る勇気を持っている児童の割合は低学年で3 ポイント、高学年で1 ポイント増加しました。今年度は、本市においても児童・生徒の身の回りに違法薬物の危険が迫っていることを示す事案が発生し、保護者のみなさんも不安感をおもちのことと思います。危険は言葉巧みに近寄ってきます。関係機関とも連携を図り、より具体的なケースを想定した指導の必要性を感じています。また、子どもたちの小さな変化を見逃さないよう学校と家庭とが連携して子どもたちを見守っていきたいと考えています。

- ⑭ 子どもは、自分には良いところがあると思っていると思われますか。（保護者）
 自分には良いところがありますか。（児童）
 児童が自分には良いところがあると思えるような支援をしていますか。（教職員）

保護者	児童（高学年）	児童（低学年）	教職員
「4」 39%	「4」 57%	「4」 64%	「4」 39%
「3」 53%	「3」 27%	「3」 25%	「3」 61%
「2」 7%	「2」 10%	「2」 6%	「2」 0%
「1」 1%	「1」 6%	「1」 5%	「1」 0%

自己肯定感を持っている児童の割合は前期とほぼ同じで、「4」と「3」の割合をみると「4」が増え、その分「3」が減っています。「2」や「1」に目を移すと、どちらも前期とほぼ同率であり、自己肯定感をもてない児童の固定化を懸念しています。また、保護者は「4」～「1」のすべてが前期とほぼ同率で、子どもへの評価が固定されている結果と云えるかもしれません。

日々の子育ての中では思い通りにいかないこともあると思います。そのことで悩んだり困ったりされていることが評価に繋がっているのかもしれません。思うよう行動してくれることで「良いところがない」と決めつけるのではなく、その子の可能性を信じて粘り強く関わり、励ましていくことが子どもの自己肯定感の醸成につながると思います。

学校では、子どもたちが自分を前向きにとらえることができるよう適切に働きかけていきたいと考えています。お困りのこと等ございましたら、どうぞ学校にご相談ください。保護者のみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

自由記述欄について

家庭での学習や読書の習慣づけの工夫について記述していただきました。その中のいくつかをご紹介しますので、参考にしていただければと思います。

■家庭学習

- 自主性を大切にしたいので、押し付けることはせず、できるだけ見守っています。
- 学習のスケジュール（月単位、週単位等）を立てて、計画的に進めるようにしています。
- 毎日、今日やることを決め、時折「できているかな？」と声掛けをしています。
- 親も一緒になって楽しむ姿勢で関わるようになっています。
- 勉強する時間、遊ぶ時間とメリハリをつけるようにしている。
- 具体的な目標を設定して（漢検合格など）、それに向かって頑張れるようにしています。

■読書

- 定期的に図書館へ行き、本を借りてくるようにしています。
- 親自身が読書を楽しんでいる姿を見せるように心がけています。
- 一緒に本屋さんに行って子どもが読みたい本、親が読ませたい本を購入しています。
- 寝る前の読み聞かせを続けています。
- 読みたいときにすぐに本を手にとれる位置に本を置いています。
- 子どもの世界が広がるような本をいつもチェックしています。
- 寝る前に子どもの読書タイムをとるようにしています。